

平成29年度 埼玉県学力・学習状況調査 —小学校の結果分析について—

＜○教科の結果についての概要 ☆指導改善のポイント＞

小学校第4学年

【国語】

○県正答率をやや上回った。文学的文章の理解に関しては、学習の定着がみられた。「国語辞典に出てくる順に言葉を並び替える」問題は県平均をやや下回った。「話題について自分意見とその理由を二段落構成で書く」問題は、平均を下回るとともに無解答率も20%を超え、課題がある。

☆日常的に国語辞典の活用を図る（国語科問わず）。また、自分の考えが明確になるように段落相互の関係に注意して文章を構成する指導を充実させていく。

【算数】

○県平均正答率をやや下回った。「小数第1位までの減法の計算」において、正答率が大きく県を上回り、学習内容の定着がみられた。「文章を読み、その関係を□を使って式に表す」など、数量関係を問う問題では無解答率が高く、学習内容の定着に課題が見られた。

☆文章から読み取った数量関係を、図や式に表す学習を積み重ねていく。

小学校第5学年

【国語】

○学力の伸びは県を下回った。文学的文章の理解、慣用句やことわざに関する問題は、学習の定着がみられた。「同音異義語」や「多義語」の問題はやや県平均を下回り、「話題について自分意見とその理由を資料にもとづいて二段落構成で書く」問題は、平均を下回るとともに無解答率も25%を超え、課題がある。

☆言語に関する指導は、言語活動を通して、理解や活用ができるという視点で授業を工夫する。書く指導は、事実と感想を区別し、資料を用いて書く指導、文章構成の効果を考える指導の工夫をする。

【算数】

○学力の伸びは県平均と同等だった。「四捨五入して概数で表す」「三角定規の性質を基に角度を求める」問題において、正答率が県を大きく下回り、学習内容の理解と定着に課題が見られた。「長方形のたての長さとの横の長さの関係を式で表す」など数量関係を問う問題では、無解答率が2割を超えるなど、課題が見られた。

☆単元の学習が終わった後も、補充学習や家庭学習で復習に取り組むなどし、学習内容の確実な定着を図っていきたい。

小学校第6学年

【国語】

○学力の伸びは県平均を上回った。文学的文章・説明的文章の理解に関する問題については、学習の定着が見られた。「慣用句」や「敬語」の問題は、やや県平均を下回った。また、実際に資料を用い、構成を考えて書くことは、無解答率も10パーセントであり、やや課題がある。

☆「慣用句」や「敬語」の指導については、単元が終わっても家庭学習の課題にしたり、日常的に活用したりと学習の積み重ねを充実させる。「書く」指導に関しては、自分の考えと資料の適切さや文章構成の効果の指導を充実させるとともに、身につけた力を他教科でも活用させる。

【算数】

○学力の伸びは県平均と同等だった。「小数のわり算の正しい答えを求める」「単位量当たりの大きさについて」を問う問題で、学習内容の定着が見られた。「円グラフにある百分率から数値を求める」問題では、正答率は県と同等だが、無解答率が35%を超え、課題が見られた。

☆割合や単位量あたりの大きさの学習は、授業改善が進んだ成果を見ることができた。今後も、文章から読み取った数量関係を、数直線を活用するなどして捉え、立式し、解決する指導を充実させるとともに、最後まで粘り強く課題解決に取り組む態度も育成していきたい。